

中心拠点病院の事業について

国立成育医療研究センター アレルギーセンター

大矢幸弘

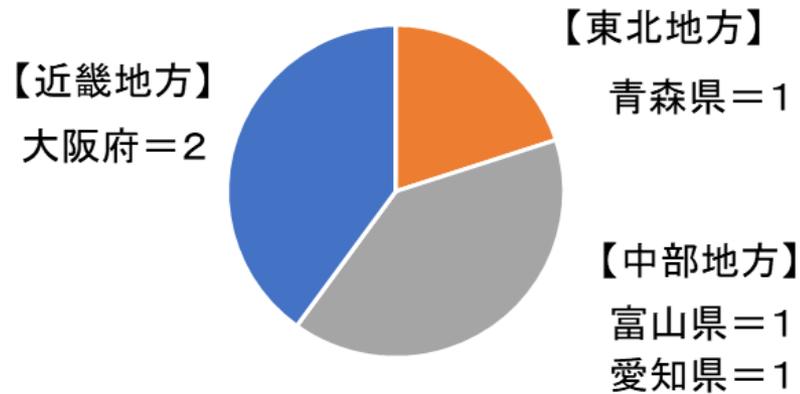
小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム (2019年度～)

	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	ジャーナル クラブ		回診	
9:00	外来見学			外来見学	外来見学
10:00	アトピー教室	喘息教室		食物アレルギー教室	乳児教室
11:00		食物負荷 見学または 外来見学	食物負荷 (1名担当)		
12:00	外来見学			外来見学	外来見学
13:00					
14:00	病棟 /OFC予習 /レクチャー	病棟 /OFC予習 /レクチャー	病棟 /OFC予習 /レクチャー	皮膚テスト/ 気道過敏性 試験など	病棟 /OFC予習 /レクチャー
15:00		食物負荷 退院時診察	食物負荷 退院時診察		ヒアリング①
16:00	ガイダンス (メンター)				回診
	輪読会			カンファレンス	
17:00	回診				

	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	ジャーナル クラブ		回診	
9:00				外来見学 初診問診	
10:00		喘息教室 (SLIT教室)			
11:00	食物負荷 (2名担当)	食物負荷 (2名担当) または 外来見学	食物負荷 (2名担当)		食物負荷 (2名担当)
12:00					
13:00					
14:00	病棟 /OFC予習 /レクチャー	病棟 /OFC予習 /レクチャー	病棟 /OFC予習 /レクチャー	皮膚テスト/ 気道過敏性 試験など	病棟 /OFC予習 /レクチャー
15:00		食物負荷 退院時診察	食物負荷 退院時診察		食物負荷 退院時診察
16:00					回診
	輪読会			カンファレンス 発表	ヒアリング②
17:00	回診				

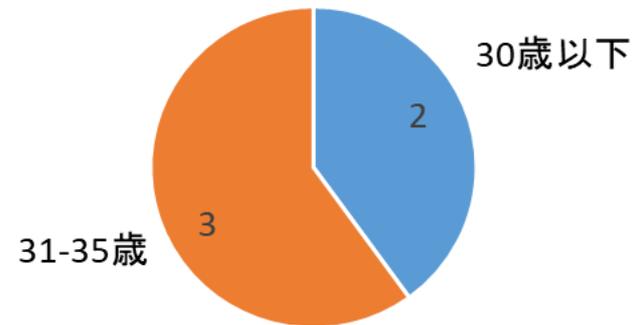
研修参加者の背景

参加者所属施設の所在地域



今年度中にさらに愛知県、大阪府、和歌山県の拠点病院より各1名の先生方がご参加予定（➡計8名）

参加者の年齢



<専門医資格の有無>

小児科専門医 = 3名 アレルギー専門医 = 0名

拠点病院医師に加え、一般応募として東京都、山形県、神奈川県、愛媛県、米国大学病院より、計7名の医師が参加（予定）

研修結果の評価 (1)

- 2A-1 食物アレルギー患者の問診を行い、経口摂取による即時型反応と、それ以外を区別して記録することができる
- 2A-2 特異的IgE・皮膚テスト・食物負荷試験の検査の精度の違いについて説明できる
- 2A-3 皮膚プリックテストを実施し、制限解除が可能な食品の選択ができる
- 2A-4 アレルゲンコンポーネントに基づいた診断ができる
- 2A-5 食物経口負荷試験(模擬)を行う患者へ、指示書での説明と同意書取得ができる
- 2A-6 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、入院指示簿、処置、投薬準備を行うことができる
- 2A-7 病棟で負荷試験担当看護師が準備している物品と補助業務内容を認識する
- 2A-8 1日2~3例の負荷試験症例の予診・食品準備・カルテ記載・病室の物品確認ができる
- 2A-9 1日2~3例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
- 2A-10 二重盲検法による食物経口負荷試験の実施を補助することができる
- 2A-11 即時型反応の可能性が低い食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-12 即時型反応の可能性が残る食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-13 食物経口負荷試験の結果が陰性であった食品の除去解除について、方針を提案することができる
- 2A-14 即時型反応を疑う症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる
- 2A-15 エピペン® の適応、適切な規格選択、一般的な使用のタイミングについて説明できる
- 2A-16 エピペン®について、同意文書取得・処方医登録の規定と、保険診療上のコストを理解する
- 2A-17 エピペン® の使用法の説明ができる
- 2A-18 アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
- 2A-19 アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
- 2A-20 アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
- 2A-21 アトピー性皮膚炎のスキンケア法(石鹸洗浄、軟膏塗布)の指導ができる
- 2A-22 アトピー性皮膚炎の薬物療法と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
- 2A-23 プロアクティブ・寛解維持療法の概念について説明できる
- 2A-24 アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
- 2A-25 アレルゲン二重曝露仮説の理論を説明することができる
- 2A-26 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
- 2A-27 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
- 2A-28 気管支喘息の悪化因子を挙げられる
- 2A-29 フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者(保護者)に説明ができる
- 2A-30 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者(保護者)に説明できる
- 2A-31 気道過敏性検査を行うことができる
- 2A-32 重症度に応じた気管支喘息の長期管理薬を選択できる
- 2A-33 (気管支喘息の急性増悪予防のための)環境整備について指導できる
- 2A-34 患者の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患者(保護者)に指導ができる
- 2A-35 気管支喘息における急性増悪時の対応を患者(保護者)に指導できる
- 2A-36 舌下免疫療法について、効果、副作用、服用法の説明ができる

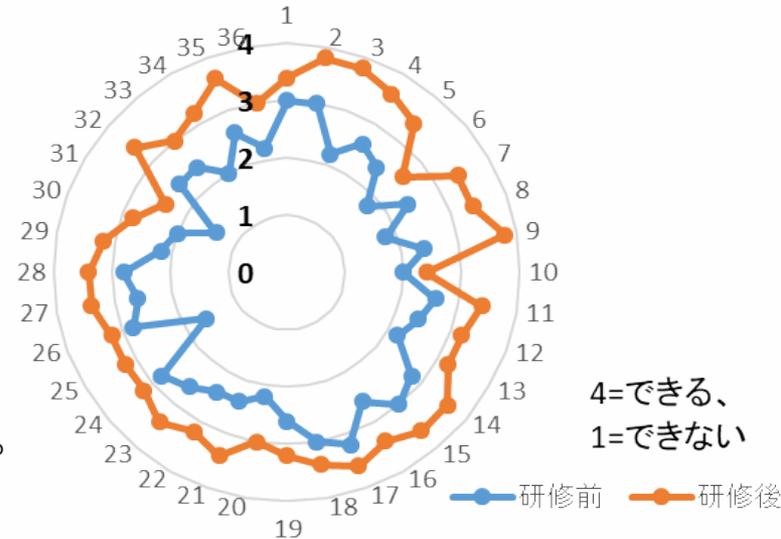
研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応(満足度)評価
- ・学習(知識スキル)評価
- ・行動(実際の行動変容)評価
について参加者により評価

(研修前・終了時・研修6か月後)

知識、技能に関する36の質問



研修結果の評価 (1)

食物アレルギー

- 2A-1 食物アレルギー患者の問診を行い、経口摂取による即時型反応と、それ以外を区別して記録することができる
- 2A-2 食物経口負荷試験 (IgE・皮膚テスト・食物負荷試験) の検査の精度の違いについて説明できる
- 2A-3 皮膚プリックテストを実施し、制限解除が可能な食品の選択ができる
- 2A-4 アレルゲンコンポーネントに基づいた診断ができる
- 2A-5 食物経口負荷試験 (模擬) を行う患者へ、指示書での説明と同意書取得ができる
- 2A-6 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、入院指示簿、処置、投薬準備を行うことができる
- 2A-7 病棟で負荷試験担当看護師が準備している物品と補助業務内容を認識する
- 2A-8 1日2~3例の負荷試験症例の予診・食品準備・カルテ記載・病室の物品確認ができる
- 2A-9 1日2~3例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
- 2A-10 二重盲検法による食物経口負荷試験の実施を補助することができる
- 2A-11 即時型反応の可能性が低い食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-12 即時型反応の可能性が残る食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-13 食物経口負荷試験の結果が陰性であった食品の除去解除について、方針を提案することができる
- 2A-14 即時型反応を疑う症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる
- 2A-15 エピペン® の適応、適切な規格選択、一般的な使用のタイミングについて説明できる
- 2A-16 エピペン® について、同意文書取得・処方医登録の規定と、保険診療上のコストを理解する
- 2A-17 エピペン® の使用法の説明ができる

アトピー性皮膚炎

- 2A-18 アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
- 2A-19 アトピー性皮膚炎のバリア機能回復について説明できる
- 2A-20 アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
- 2A-21 アトピー性皮膚炎のスキンケア法 (石鹸洗浄、軟膏塗布) の指導ができる
- 2A-22 アトピー性皮膚炎の薬物療法と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
- 2A-23 プロアクティブ・寛解維持療法の概念について説明できる
- 2A-24 アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
- 2A-25 アレルゲン二重曝露仮説の理論を説明することができる

喘息・アレルギー性鼻炎

- 2A-26 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
- 2A-27 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
- 2A-28 気管支喘息の悪化因子を挙げられる
- 2A-29 フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者 (保護者) に説明ができる
- 2A-30 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者 (保護者) に説明できる
- 2A-31 気道過敏性検査を行うことができる
- 2A-32 重症度に応じた気管支喘息の長期管理薬を選択できる
- 2A-33 (気管支喘息の急性増悪予防のための) 環境整備について指導できる
- 2A-34 患者の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患者 (保護者) に指導ができる
- 2A-35 気管支喘息における急性増悪時の対応を患者 (保護者) に指導できる
- 2A-36 舌下免疫療法について、効果、副作用、服用法の説明ができる

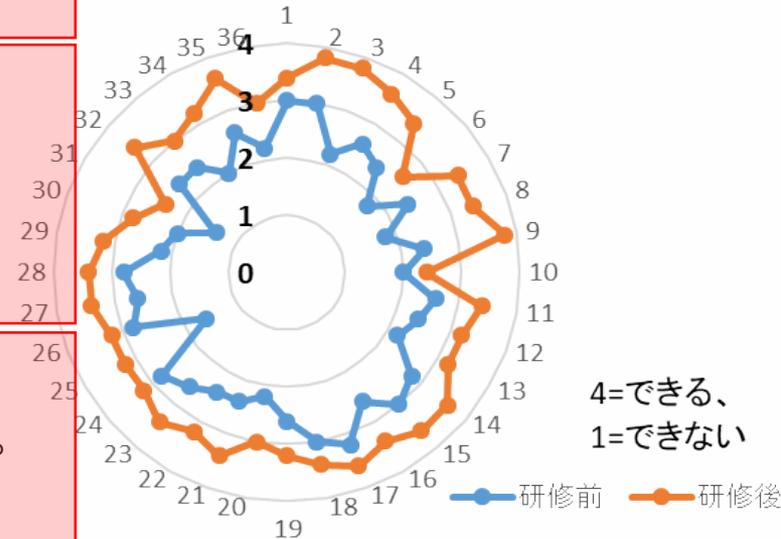
研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応 (満足度) 評価
- ・学習 (知識スキル) 評価
- ・行動 (実際の行動変容) 評価
 (について参加者により評価)

(研修前・終了時・研修6か月後)

知識、技能に関する36の質問



研修結果の評価 (1)

- 2A-1 食物アレルギー患者の問診を行い、経口摂取による即時型反応と、それ以外を区別して記録することができる
- 2A-2 特異的IgE・皮膚テスト・食物負荷試験の検査の精度の違いについて説明できる
- 2A-3 皮膚プリックテストを実施し、制限解除が可能な食品の選択ができる
- 2A-4 アレルゲンコンポーネントに基づいた診断ができる
- 2A-5 食物経口負荷試験(模擬)を行う患者へ、指示書での説明と同意書取得ができる
- 2A-6 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、入院指示簿、処置、投薬準備を行うことができる
- 2A-7 病棟で負荷試験担当看護師が準備している物品と補助業務内容を認識する
- 2A-8 1日2~3例の負荷試験症例の予診・食品準備・カルテ記載・病室の物品確認ができる
- 2A-9 1日2~3例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる

- 2A-10 二重盲検法による食物経口負荷試験の実施を補助することができる
- 2A-11 即時型反応の可能性が低い食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-12 即時型反応の可能性が残る食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-13 食物経口負荷試験の結果が陰性であった食品の除去解除について、方針を提案することができる

- 2A-14 即時型反応を疑う症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる
- 2A-15 エピペン® の適応、適切な規格選択、一般的な使用のタイミングについて説明できる
- 2A-16 エピペン®について、同意文書取得・処方医登録の規定と、保険診療上のコストを理解する
- 2A-17 エピペン® の使用法の説明ができる
- 2A-18 アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
- 2A-19 アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
- 2A-20 アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
- 2A-21 アトピー性皮膚炎のスキンケア法(石鹸洗浄、軟膏塗布)の指導ができる
- 2A-22 アトピー性皮膚炎の薬物療法と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
- 2A-23 プロアクティブ・寛解維持療法の概念について説明できる
- 2A-24 アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
- 2A-25 アレルゲン二重曝露仮説の理論を説明することができる
- 2A-26 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
- 2A-27 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
- 2A-28 気管支喘息の悪化因子を挙げられる
- 2A-29 フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者(保護者)に説明ができる
- 2A-30 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者(保護者)に説明できる

- 2A-31 気道過敏性検査を行うことができる
- 2A-32 重症度に応じた気管支喘息の長期管理薬を選択できる
- 2A-33 (気管支喘息の急性増悪予防のための)環境整備について指導できる
- 2A-34 患者の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患者(保護者)に指導ができる
- 2A-35 気管支喘息における急性増悪時の対応を患者(保護者)に指導できる
- 2A-36 舌下免疫療法について、効果、副作用、服用法の説明ができる

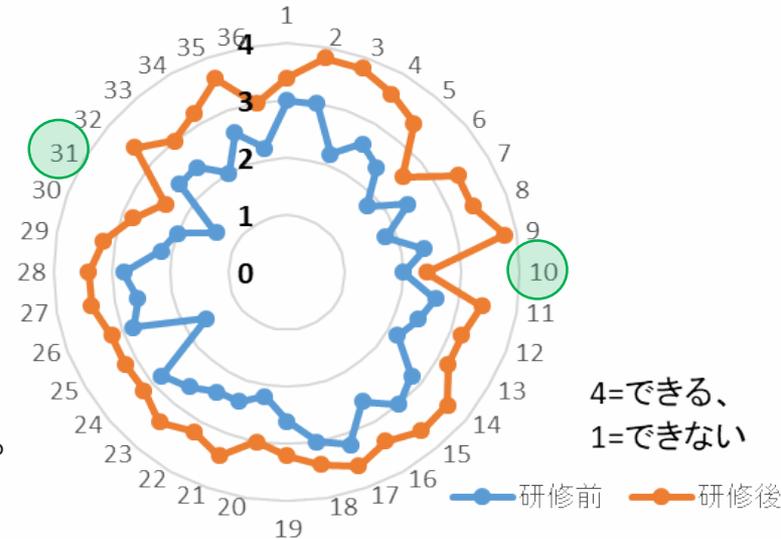
研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応(満足度)評価
- ・学習(知識スキル)評価
- ・行動(実際の行動変容)評価
について参加者により評価

(研修前・終了時・研修6か月後)

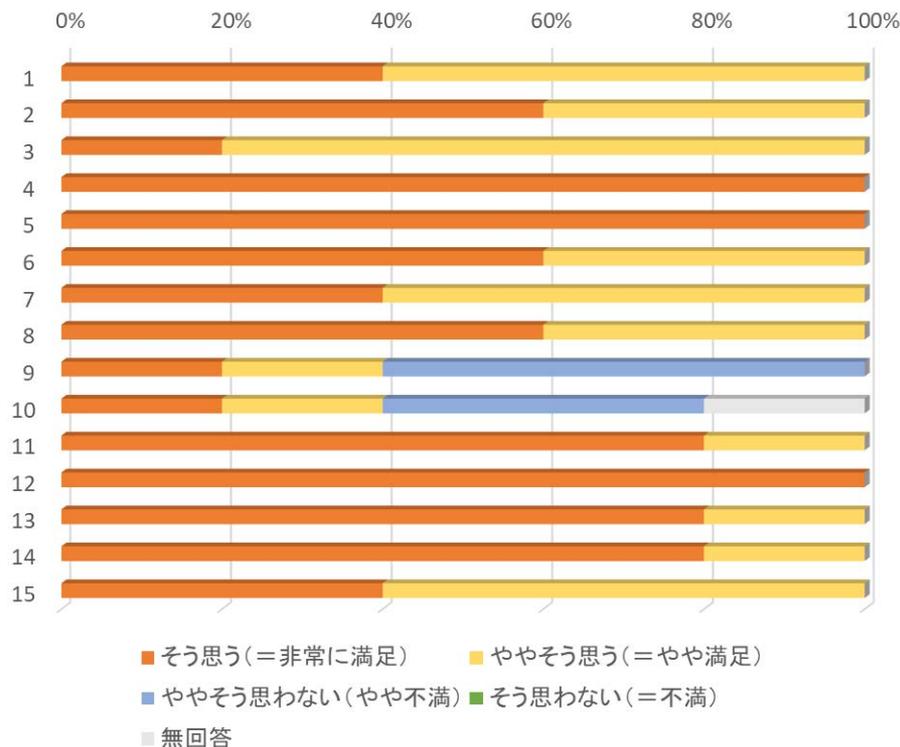
知識、技能に関する36の質問



研修結果の評価 (2) 「プログラム評価」

- 1 到達目標の項目数は、研修日数に対して適切であった
- 2 到達目標の項目は、自分のニーズに対して適切であった
- 3 研修各日のスケジュールの量(忙しさ・暇さ)はおしなべて平均化すると適切であった
- 4 患者向けの教室見学は有用であった
- 5 看護指導(患者向け教室での看護指導を含む)の見学は有用であった
- 6 病棟における実習(食物負荷試験など)の内容は十分であった
- 7 外来における実習(生理検査など)の内容は十分であった
- 8 本教育プログラム用に作成された教材の内容・量は適切であった
- 9 ワークシートの使用は有用であった
- 10 模擬症例を使つての実演学習は有用であった
- 11 到達目標の項目毎に担当指導医がつく制度は有用であった
- 12 メンターの機能は有用であった
- 13 ヒアリングの機能は有用であった
- 14 研修参加中の医療スタッフの態度は友好的で質問しやすい雰囲気であった
- 15 参加に関する事務サポートは適切であった

プログラム評価



【2019年10月1日開設】

アレルギー疾患電話相談事業

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development

代表 03-3416-0181 / 予約センター（病院）: 03-5494-7300
〈月～金曜日（祝祭日を除く）9時～17時〉

交通案内 お問い合わせ 取材・撮影について f t サイト内検索 Q 別途情報

患者・ご家族の方へ 医療関係者の方へ 研究者・企業の方へ ご寄付について 採用・研修 国立成育医療研究センターについて 病院 研究所 臨床研究センター

医療関係者の方へ

患者紹介・医療連携、救急転院・搬送はこちら

▶ 医療関係者の方へ

2019/11/01 看護職員採用サイトページ再開のお知らせ
2019/09/24 鑑定医療費の変更について（初診時の料金改定・再診時の新設）
2019/09/13 消費税率の改定への対応について
2019/06/21 耳鼻咽喉科から皆様へのお知らせ（手術とお問い合わせ電話について）

アレルギーに関する心配事や悩み事のご相談はこちら

成育アレルギー電話相談室

相談無料
毎週水・金曜日 15:00～16:00
（祝祭日・年末年始を除く）

令和元年度採用 常勤看護師（臨時採用）募集

成育医療お役立ち情報

災害時に役立つ情報や、小児がん、アレルギーの電話相談、ママのためのお業情報をまとめています。

お業や治療のこと、アレルギーに関する心配事や悩み事について、経験豊富なスタッフが答ええます

令和元年度採用 常勤看護師（臨時採用）募集

↑
成育医療研究センターHP
トップページに掲載

成育アレルギー電話相談室の目的

今使っているお薬のことや、これからの治療のこと、ぜん息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーに関する心配事や悩み事について、無料でお答えします。小児アレルギー疾患の診療や看護に経験豊富なスタッフが対応しますので、安心です。ご本人・ご家族だけでなく、保育・学校関係者の方からの相談にも応じていますので、お気軽にご相談ください。

アレルギーに関する心配事や悩み事のご相談はこちら

成育アレルギー電話相談室

相談無料
毎週水・金曜日 15:00～16:00
（祝祭日・年末年始を除く）

こんなご相談にご利用ください

- 乳児湿疹と言われたが、かゆい湿疹が良くならない。
- 治療のため食物除去を指示されたが、本当に必要でしょうか？
- ステロイド外用薬を使うのが心配です。大丈夫でしょうか？
- 風邪を引くたびにゼイゼイしますが、ぜん息でしょうか？
- 今使っている吸入ステロイド薬は、このまま継続して良いのでしょうか？
- いま通院している治療が最適なかどうか知りたい。専門の医師に受診したいが、どこにいるのかわからない。 …など

相談に関するご注意

- ご利用の際は、以下の点についてご了承いただきますようお願いいたします。
- 成育アレルギー電話相談室では、医療機関における診療とは異なり、直接的な個々の診療に基づいてお答え出来ません。そのため、医学的判断を要する個別の病状や治療などについての相談は、お電話でお答えしてあげません。セカンドオピニオンや他院の受診をご希望の場合はお手伝いいたします。
 - なお、当センターアレルギーセンター外来の受診（初診）方法については、アレルギーセンターホームページの【受診方法】をご覧ください。
 - 電話相談開始に先立ち、お名前（フルネーム）とご年齢、お住まいの都道府県をお尋ねします。
 - 本電話相談の内容は当センター「通話記録運用規程」に基づき録音されます。
 - 個人情報保護は当センター「個人情報及び特定個人情報の保護に関する規定」に基づき管理し、本電話相談事業以外の目的では使用いたしません。

成育アレルギー電話相談室の利用について

成育アレルギー電話相談室
03-5494-8138
毎週水・金曜日（祝祭日・年末年始を除く）15:00～16:00

- 相談は無料です。通話料のみご負担いただけます。
- 1回の相談時間は最大で15分までとさせていただきます。
- 診療中のスタッフが対応いたしますので、電話が繋がりにくい場合や即時に対応できない場合があります。あらかじめご了承ください。電話が繋がらない場合は、少し時間をおいておかけ直してください。

- 病理診断部
- 高度感染症診断部
- 医療連携・患者支援センター
- 教育研修センター
- 感染制御部
- 栄養管理部



アレルギー疾患電話相談事業

【概要】

- アレルギー疾患に係る患者・家族からの電話相談事業
- 医師および専門看護師による、週2回、1回1時間の電話相談
- ✓ 専用電話回線を設置
- ✓ 通話内容は当センター「通話記録運用規程」に従い録音
- ✓ 相談内容は当センター「個人情報及び特定個人情報の保護に関する規定」に基づき記録、保管（専用ソフト開発：情報管理部）
- ✓ 相談時間は1回につき15分以内とする

電話相談事業 アクセス状況

<Facebook>

- リーチした人数 **8,448人**
- リアクション数 656人
(「いいね！」 493人)

<Twitter>

- 174 retweet /初め1週間
- 258 like /初め1週間

<ホームページ>

- ページビュー 627 /初め1週間

国立成育医療研究センター National Center for Child Health and Development
10月4日 · 🌐

成育アレルギー電話相談をはじめました。今使っているお薬のことや、これからの治療のこと、ぜん息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーに関する心配事や悩み事について、無料でお答えします。小児アレルギー疾患の診療や看護に経験豊富なスタッフが対応します。ご本人・ご家族だけでなく、保育・学校関係者の方からの相談にも応じています。詳しくは、こちらをご覧ください。 https://www.ncchd.go.jp/.../sec.../allergy/allergy_helpline.html

アレルギーに関する心配事や悩み事のご相談はこちら

成育アレルギー電話相談室 相談無料

毎週 水・金曜日 15:00~16:00 (祝祭日・年末年始を除く)

成育アレルギー電話相談室
03-5494-8138

水・金曜日 (祝祭日・年末年始を除く) 15:00~16:00

【成育アレルギー電話相談室】
←Facebook投稿

国立成育医療研究センター National Center for Child Health and Development
1月21日 · 🌐

設立情報や、小児がん、アレルギーの電話相談、ママのためのをまとめた「成育医療お役立ち情報」を当センターのHP内にまとめ、ご参考になれば幸いです。 www.ncchd.go.jp/hospital/oyakudachi/index.html

成育医療お役立ち情報

3,543 リーチした人数
497 エンゲージメント数

127 いいね! コメント1件 シェア25件

いいね! コメントする シェアする

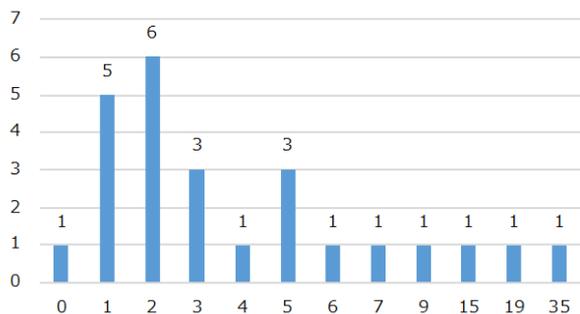
【成育医療お役立ち情報】 Facebook投稿↑

電話相談事業 現在までの実績

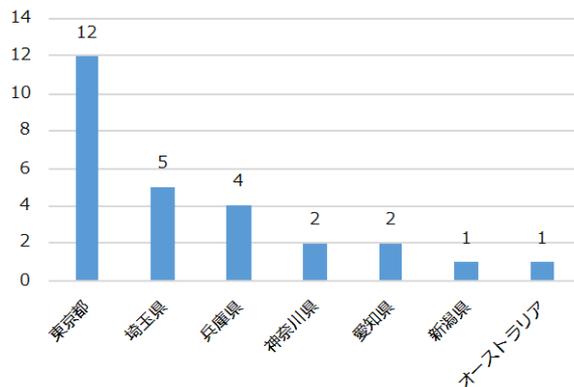
期間：2019年10月1日～11月30日の2か月間

相談件数：27件（1日平均 約2件）

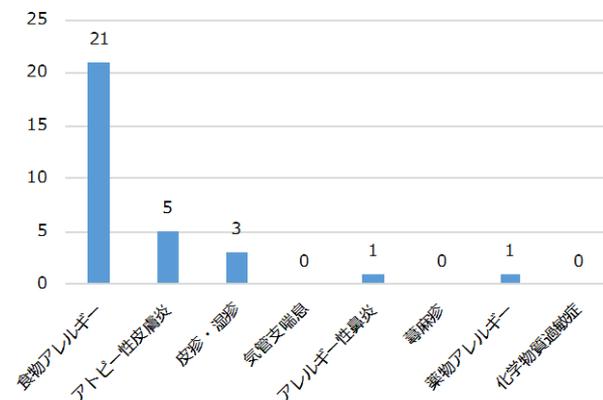
相談したい方の年齢



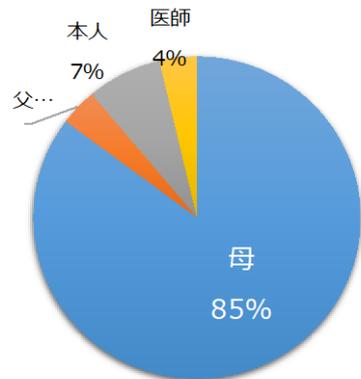
相談者の都道府県



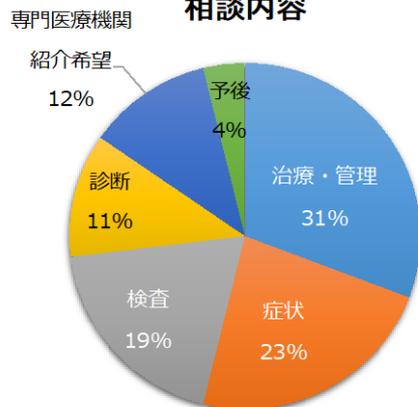
相談疾患



相談者



相談内容



相談結果

